

せいきょうれんNEWS

全岐阜県生活協同組合連合会

〒509-0197 岐阜県各務原市鵜沼各務原町1丁目4番地の1

TEL 058-370-6867 E-mail ksatou@tcoop.or.jp HP <https://www.coop-gifukuren.jp/>

県連設立50周年事業に取り組みました

活動報告

設立50周年記念式典を開催しました



2025.11.14

2025年11月14日、岐阜市のホテルグランヴェール岐山で「全岐阜県生活協同組合連合会設立50周年記念式典」を開催し、県内外から来賓や会員生協役職員など130名が出席しました。根崎周一会長理事の開会挨拶では、故水野元会長理事への追悼と、50周年を機に「誰もが健康で幸せに暮らせる地域づくり」を進めたいとの決意が述べされました。来賓として岐阜県知事江崎禎英氏、県議会議長小原尚氏、日本生協連会長新井ちとせ氏から、設立から現在までの会員生協や県連の活動への感謝と、ますますの期待を込めた祝辞をいただきました。その後、歴代役員への感謝状贈呈が行われ、故水野隼人氏の奥様である水野信枝様が登壇し、生協立ち上げ時の苦労や、これまでにいたいた支援への感謝の気持ちが語されました。

続く記念講演では、神戸女学院大学名誉教授で思想家の内田樹氏から「人口減少社会における協同組合の存在意義」のテーマで講演をお聴きました。日本の人口減少問題は東京一極集中と深く関係し、地方存続には政治的決断が不可欠であると指摘されました。

第2部の祝賀会には約90名が参加し、岐阜県、岐阜県酪連、認定NPO法人ぎふハチドリ基金、東海北陸生協県連協議会の代表の方からも祝辞をいただきました。最後に「全岐阜県生協連50年のあゆみ」動画を上映し、あらためて半世紀の歴史を振りかえりました。閉会挨拶では、内藤副会長理事から、これまでのご支援への感謝と次の設立60年に向けた決意が語されました。

今回の式典は10年ぶりの開催で、行政・民間を超えた幅広い方々の交流の場となり、地域とのつながりの深化を実感する機会となりました。参加者からは「生協と関連団体の社会貢献への意識の高さに感服した。」との声も寄せられました。



<内田樹氏の講演>



<会場の様子>



<水野信枝さんに感謝状を贈呈>

設立50周年記念事業
「拡大県連理事会研修(鹿児島県)」を行いました

2025.9.4~5

活動報告

2025年9月4~5日、設立50周年事業として、鹿児島県を訪問して拡大理事会研修を行いました。視察テーマは、「被爆・戦後80年」にちなみ、平和学習を中心としました。初日は南九州市の知覧特攻平和会館を訪れ、太平洋戦争末期に特攻基地となった知覧飛行場跡で、陸軍航空隊1,036名の遺影や遺書、遺品を視察しました。展示されていた一式戦闘機「隼」や零戦の残骸、若い隊員たちの手紙から、戦争の悲惨さと命の重みを痛感。語り部による講話では、出撃前夜に仲間を励ました高島少尉や、婚約者から贈られた白いマフラーを巻いて出撃した穴澤大尉の逸話が紹介され、参加者一同深い感銘を受けました。戦跡巡りでは「掩体壕(えんたいごう)」や「三角兵舎」などを見学し、歴史を自分の目で確かめる重要性を再認識しました。



<コープかごしまでの平和学習>

二日目はコープかごしま本部を訪問し、同生協の平和活動を学習。戦跡調査冊子や朗読劇シナリオ集、DVD制作など、地域に根差した活動の様子を学習しました。特に「戦後80年実行委員会」による創作劇や講演会、映画・音楽イベントなど、多様な企画を通じて平和を身边に考えられるよう工夫されていることが印象的でした。職員全員で取り組む「ピースフラッグ」など、組織的な意識向上も進められていることがわかりました。



<知覧特攻平和会館>

短期間ながら、鹿児島の戦跡と生協活動に触れ、戦争を繰り返さないために何が必要かを考える貴重な機会となりました。準備から当日まで支援いただいた鹿児島県生協連とコープかごしまへの感謝とともに、岐阜と鹿児島の距離が縮まったと感じた記念の研修となりました。

設立50周年記念事業「被爆ピアノコンサート」を開催しました

2025.8.22

2025年8月22日、岐阜市のぎふしんフォーラムで「被爆ピアノコンサート」を開催し、生協組合員など約700名が参加しました。今年の被爆・戦後80年と生協連設立50周年を記念し、平和の尊さを考える機会として企画しました。全国で被爆ピアノコンサートを主宰されているピアノ調律師の矢川光則さんは、原爆による被害を受けた方々から被爆ピアノを託された方でご自身も被爆二世です。2005年から全国で3,000回以上の演奏活動を続けてこられており、今 年は約270会場を巡られています。今回使用された「宇品ピアノ」は爆心地から3kmで被爆し、傷跡を残したまま修復され、当時の音色を伝えていました。

第1部では矢川さんが被爆ピアノの歴史や修復への思いなどを語られ、名古屋市で活動するピアニスト佐藤奈菜さんがクラシック曲などを演奏、シャンソン歌手の七瀬紫さんが「ヒロシマ」「長崎の鐘」などを歌唱しました。第2部冒頭では、コーポぎふの組合員と職員による「ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ」報告に続き、ジプリメドレーや「Jupiter」「瑠璃色の地球」などが披露され、最後に「花は咲く」を全員で齊唱しました。ロビーでは「被爆者が描いた絵碑」パネル展や募金活動、こども平和新聞の掲示、会場スクリーンでは日本生協連の「わたしたちの平和宣言」上映も行われました。



<出演者に花束を贈呈>



<被爆ピアノコンサート>

参加者からは「魂がこもっていた」「語りかけるようだった」との声が寄せられ、涙を流したという感想も多く、音楽が戦争の記憶を呼び起こし平和への意識を高める大きな力を持っていることを実感しました。親子での参加者からは「子どもと平和を話すきっかけになった」との声もあり、世代を超えて共感が広がりました。募金は、「被爆者の描いた絵をその街角に返そう募金」に寄付。核兵器禁止条約署名や今後の講演会の案内も行われ、平和活動への行動を促す場となりました。初めての企画ながら大きな反響を得て、音楽を通じて「戦争を繰り返さない」という願いを共有する意義深い催しとなりました。

国際協同組合年(IYC2025)の活動に取り組みました

「協同組合を考える集い」を開催しました



2025.5.15

2025年5月15日、岐阜市のぎふメディアコスモスで、岐阜県協同組合間提携推進協議会主催の「協同組合を考える集い」が開催され、JA岐阜中央会、JA全農岐阜、岐阜県酪連、岐阜県生協連の4団体から112名が参加しました。この集いは1992年から毎年行われており、今年は「国際協同組合年」に合わせ、例年より早い開催となりました。

協議会座長の李倫美(イ・ユンミ)岐阜大学准教授から今年の集いの趣旨説明と岐阜県の協同組合間提携の歩みが報告され、その中では、毎年岐阜大学に出講して行っている協同組合についての講義での学生からの感想も紹介されました。続いて各団体から組織や事業、社会活動を報告し、全岐阜県生協連からは会員生協の紹介や、岐阜大学生協の定款を例に、法令や制度の中で生協がどのように運営されているか等を説明しました。

後半は日本協同組合連携機構(JCA)の横溝氏による講演「地域における協同組合の可能性」。国連が協同組合の課題解決力を評価していること、国際協同組合年は認知度向上の好機であり、連携強化による可能性の広がり等が説明されました。

最後に、JA全農岐阜の伊藤副本部長の閉会挨拶で、協同組合の役割を再確認して終了しました。



<協同組合を考える集い>

「協同組合に関する学習会」を開催しました

2025.7.10

2025年7月10日、岐阜県協同組合間提携推進協議会主催で「協同組合に関する学習会」が開催され、県内12の協同組合から職員16名が参加しました。今年は、コーポぎふ大洞虹の家と芥見店を会場としました。この学習会は、協同組合職員が学びと交流を深めることを目的として2019年から始まり、コロナ禍を経て今回で5回目となり、今年は国際協同組合年にちなみ、例年より開催を2か月早めて開催しました。

午前は芥見店の大洞店長から店舗の概要説明と、コーポぎふ本部の安田さんから生協で取り扱っている「協同」の商品や取り組みが紹介され、その後、店内を視察して農産品・畜産品など協同の実例を確認しました。また、後方(休憩室など)で、職員間のコミュニケーション活動(表彰・提案・共有)の取り組みや、組合員の声の共有の仕組みも学びました。午後は協議会の各構成団体の概要報告を行った後、日本協同組合連携機構(JCA)の澤田氏が「国際協同組合年」のテーマで講義し、協同組合同士の連携の実践事例や意義について学習し、更なる強化を呼びかけました。続いて青木氏の進行で「協同間で連携できること」をテーマにグループワークを実施。地域課題や組合員の暮らしを踏まえ、今後の協力の可能性を検討しました。

参加者からは「難しいテーマだが有意義だった」「施設見学が新鮮だった」などの声が寄せられ、協同組合同士の理解を深める貴重な機会となりました。異なる法律や制度の壁を越え、「ゆるやかに」「あいのり」「やってみる」姿勢で今後も連携を進めていくこうという共通認識がつくれました。



<コーポぎふ芥見店の視察>

被爆・戦後80年の活動に取り組みました

講演会「核兵器のない世界を築くために」に参加しました



2025.10.11

2025年10月11日、岐阜市の「みんなの森 ぎふメディアコスモス」において、「被爆者の願いを継承する岐阜県民の会」主催で被爆・戦後80年記念講演会「核兵器のない世界を目指して～『核抑止』では平和は守れない～」が開催され、約150名が参加しました。

講師にはICAN国際運営委員で国際NGOピースポート共同代表の川崎哲氏を招き、核不拡散条約(NPT)から核兵器禁止条約採択までの歴史的経緯の解説や、核兵器の非人道性を訴える国際会議の議論、東アジアにおける平和外交の課題等を幅広く学習しました。川崎氏は昨今の核兵器をめぐる世界情勢に対し、「核抑止では平和は守れない」と強調され、日本が核兵器禁止条約に参加していくための5つのステップを提示。軍事力依存ではなく「軍事力を使わない平和の準備」が必要だと訴えました。



<川崎哲氏>

さらには、ICANの活動や被爆者証言を世界に届ける取り組みが紹介され、核兵器廃絶に向けた国際的な連帯の重要性が強調されました。参加者からは「核兵器の恐ろしさを再認識した」「自分にできることを考えたい」との声が寄せられました。

被爆・戦後80年の節目に、核兵器廃絶と恒久平和への意識を高め、次世代への継承と具体的な行動を促す貴重な機会となりました。



<講演会「核兵器のない世界を築くために」>

活動報告

「すべての国に核兵器禁止条約の批准を求める署名運動」に参加しています

全岐阜県生協連が参加する「被爆者の願いを継承する岐阜県民の会」では、核兵器の廃絶を目指し2021年から署名活動に取り組んでいます。今年11月までの累計署名数は88,357筆となりました。街頭署名にも取り組み、これまで33回で1,061筆の署名が集まりました。署名用紙は年次で日本被団協に送付し、日本政府に提出されています。昨年は日本被団協がノーベル平和賞受賞という嬉しいニュースがあった一方で、世界の各地で戦争や武力衝突が続き核兵器の使用リスクも高まっています。被爆・戦後80年を節目として、引き続き被爆者の皆さんとともに、核兵器のない世界の実現を目指し活動していきます。



<今年集まった署名9,459筆を日本被団協に送付しました。>

防災・減災、被災者支援の活動に取り組んでいます

活動報告

「岐阜県災害中間支援組織にかかる検討会議」への参加が始まりました

2025.7月～

2025年度より、「岐阜県災害中間支援組織にかかる検討会議」が設置されました。この会議は、行政とNPO・ボランティア団体をつなぎ、大規模災害時の支援活動を調整する「中間支援組織」の設置を目的に今年度から始まりました。内閣府では全国での設置を推進しており、既に半数以上の都道府県で整備が進行中です。

岐阜県では、この検討会議で調査研究活動等を行い、2027年度末までに岐阜県で体制を整えることを目指しています。構成団体には岐阜大学防災センター、ぎふNPOセンター、岐阜県社協、日本赤十字社岐阜県支部などが参加。全岐阜県生協連も委員として、会員生協のコープぎふとともにこの会議に参加しています。



<検討会議>

検討会議は7月から始まり、10月には県内の団体・企業のボランティア資源を把握するためのアンケート調査を実施し、全岐阜県生協連も会員生協とともに回答しました。南海トラフ地震などの大規模災害に備え、情報共有や活動調整の仕組みを強化することは喫緊の課題です。今後も検討会議への参加を通じて、災害対応力の向上と地域連携の強化を進めます。

活動報告

「岐阜県災害ボランティア連絡調整会議設置訓練」に参加しました

2025.8.31

2025年8月31日、岐阜県総合防災訓練の一環として「災害ボランティア連絡調整会議設置訓練」が県庁で実施され、岐阜県災害ボランティア連絡会に登録する17団体や被災市町村(大垣市・川辺町)などが参加しました。想定は「揖斐川-武儀川断層による直下型地震」で、西濃・中濃地域に甚大な被害が発生したとの状況。訓練は、災害ボランティアセンター設置の連絡・報告、連絡調整会議の開催、専門部会での課題検討などを実施。被災地からのリアルな要請を受け、各団体が即応可能な支援を出し合う方式に進化しています。



<専門部会の様子>



<全体会議の様子>

訓練の中では、運営スタッフや輸送車両、宿泊拠点、通訳、子どものお世話、炊き出し、ペット避難者支援など被災地の現場から多様なニーズが報告されました。全岐阜県生協連からは、日本生協連と連携した「コープ被災地支援センター」設置準備や炊き出し器具・食材が提供可能であることを報告。医療・介護スタッフ不足への対応も検討しました。訓練は2019年開始以来7年目で、訓練内容がより現実的になっています。生協として今後の課題は、全国生協の支援力をいかに行政・社協の動きと円滑に連携できるか、また組合員や職員ボランティア組織の体制づくり等となります。

活動報告

「熊本県豪雨災害」「大分県大規模火災」への支援募金をおくりました

2025.10.1
2025.12.16

2025年8月に熊本県豪雨災害、11月に大分県大規模火災の大規模自然災害が発生しました。被災地の熊本県生協連、大分県生協連から日本生協連を通じて全国の生協に支援募金の要請がありました。全岐阜県生協連では、この呼びかけに応じて、それぞれ10万円の募金をお送りしました。これからも、一日も早い復興を願い、できうる支援を継続していきます。

<支援募金の呼びかけ>



地域との連携・協働の取り組みを進めました

活動報告

第36回岐阜県農業フェスティバルに出展しました

2025.10.25~26

2025年10月25・26日、岐阜県庁周辺で「第36回岐阜県農業フェスティバル」が開催され、県産の農畜水産物や加工品の消費拡大を目的に多彩な企画が行われました。今年は「楽しい農業」「オーガニックマルシェ」「薬草フェスティバル」など新企画を追加し、鳥獣対策・ジビエコーナーも拡充。天候は初日曇り、2日目午後は雨でしたが、2日間で15万1千人の来場者で賑わいました。

全岐阜県生協連は「ひだ・みの屋台横丁」最東部にテント4張りで出展し、生協商品の販売や活動紹介を実施。飛騨のりんごブースには時間前から長蛇の列ができるなどの盛況ぶりでした。売上的一部分はユニセフ募金に寄付されました。コープぎふ生産者の会「ぎふ虹の会」が焼きそばや奥美濃古地鶏串、飛騨りんごなどを提供。JA全農ぎふの美濃いび茶も販売されました。



関連団体にも協力していただき、福祉施設コーナーでは「いぶき福祉会」が手作り菓子やジャムを販売。ユニセフコーナーでは「岐阜県ユニセフ協会」が募金活動を展開。こくみん共済coopは輪投げゲームで募金を呼びかけ、コープぎふは宅配ブランド「タノモット」をPRし当日加入もありました。スタッフは延べ76名、売上は約123万円。安全管理を徹底し、今年も地域の方とのつながりを深める有意義なイベントとなりました。

活動報告

消費者ネットワーク岐阜 2025年度下期講演会に参加しました

2025.12.6

2025年12月6日(土)、消費者ネットワーク岐阜2025年度下期講演会が岐阜市の「ぎふしんフォーラム」で開催され、同会の会員・世話人や一般の方・行政関係者など32名が参加しました。今回は、岐阜県警察本部生活安全部少年課の林昌弘次席を講師に、近年、若者を狙い増加している、投資詐欺、薬物、オンラインカジノ等の消費者被害について学習しました。講演では、大学生をはじめとする若者が被害者になるだけでなく、加害者として巻き込まれるケースも増えていることがわかりましたし、投資詐欺の手口や、SNSなどを通じて広がる違法情報、オンラインカジノの違法性とそのリスク、さらには薬物依存の怖さなどについて具体的な事例や動画を交えて学習しました。

参加者からは、「情報を持つことがいちばんの予防だと改めて感じた」「他人事ではなく自分事と思い気をつけたいし、周りにも情報発信をしたい」「自分自身を、家族をしっかりと守りたいと思った」との感想が出されました。この講演の動画は大学の授業にも活用され数百人の学生が視聴して学習します。



<消費者ネットワーク岐阜 下期講演会>

活動報告

県議会各派代表・県連理事会懇談会を開催しました

2025.12.18

2025年12月18日、岐阜市のホテルグランヴェール岐山にて、毎年恒例の「県議会各派代表・県連理事会懇談会」を開催しました。県議会からは高殿尚副議長をはじめ4会派の代表議員が、岐阜県からは環境エネルギー生活部の吉川次長らが出席。生協側は全岐阜県生協連と7会員生協の代表が参加しました。冒頭、根崎会長理事より設立50周年記念式典の謝意と、地域課題共有の重要性が述べられました。高殿副議長は、生協の幅広い活動に敬意を示し、県民の幸福度向上に向けて協同していくことへの期待が述べされました。生協連からは50周年事業、防災・減災、食の安全、平和活動などを報告し、各会員生協からも組織や活動を紹介しました。意見交換では、物価高や人件費増による医療・介護負担、人口減少下での見守りや宅配サービスの重要性、防災体制の課題、災害協定や備蓄連携の必要性などが話題になりました。学校生協の図書事業や西濃医療生協の介護人材確保策にも関心が寄せられました。



行政からは「生協は県民生活を支えるパートナー」として、防災・生活支援での連携強化に期待が示されました。

閉会挨拶では、内藤副会長理事が「本日の意見を行政・議会との協働に活かし、地域の安心・安全に貢献したい」と締めくくりました。今年の懇談会も、防災・減災、子育て支援、食の安全、見守りなど、県民生活を守るために、議会、行政、生協が相互理解を深める貴重な機会となりました。

岐阜県学校生協 岐阜大学生協 岐阜県労働者共済生協 コープぎふ
岐女短生協 西濃医療生協 生協アイチョイス岐阜